

環政計発第 120724001 号  
平成 24 年 7 月 24 日

各中核市・特例市の長 殿

環境事務次官

平成 21 年度地域環境保全対策費補助金（中核市・特例市グリーンニュー  
ディール基金）交付要綱の一部改正について（通知）

平成 21 年度地域環境保全対策費補助金（中核市・特例市グリーンニュー  
ディール基金）の取扱いについては、「平成 21 年度地域環境保全対策費補  
助金（中核市・特例市グリーンニューディール基金）交付要綱の制定につい  
て（平成 23 年 9 月 5 日付け環政計発第 110905002 号環境事務次官通知）」  
により通知したところであるが、今般、別紙のとおり一部を改正したので通  
知する。

なお、施行日は、平成 24 年 7 月 24 日とする。

「平成 21 年度地域環境保全対策費補助金（中核市・特例市グリーンニューディール基金）交付要綱（平成 23 年 9 月 5 日付け環政計発第 110905002 号）」の一部を次のように改正する。

（傍線の部分は改正部分）

改正案	現行
<p>第 1 条～第 13 条 略</p> <p>（実績報告書）</p> <p>第 13 条 中核市等の長は、補助事業を完了したとき（第 11 条の規定に基づく補助事業の中止又は廃止の承認を受けたときを含む。）は、事業を完了した日（補助事業の中止又は廃止の承認を受けた日）から起算して 30 日を経過した日又は翌年度の 4 月 10 日のいずれか早い日までに様式 6 <u>（中核市・特例市グリーンニューディール基金に基づき実施する事業が全て終了し、残額がある場合は、様式 6－1）</u>による実績報告書を環境大臣に提出しなければならない。</p> <p>第 14 条～第 17 条 略</p> <p><u>（附則）</u> この要綱は、平成 24 年 7 月 24 日から施行する。</p>	<p>第 1 条～第 13 条 略</p> <p>（実績報告書）</p> <p>第 13 条 中核市等の長は、補助事業を完了したとき（第 11 条の規定に基づく補助事業の中止又は廃止の承認を受けたときを含む。）は、事業を完了した日（補助事業の中止又は廃止の承認を受けた日）から起算して 30 日を経過した日又は翌年度の 4 月 10 日のいずれか早い日までに様式 6 による実績報告書を環境大臣に提出しなければならない。</p> <p>第 14 条～第 17 条 略</p>

（注）様式 6－1 については、＜交付要綱様式＞を参照すること。

平成 21 年度地域環境保全対策費補助金  
(中核市・特例市グリーンニューディール基金)  
交付要綱

(通則)

第 1 条 地域環境保全対策費補助金（以下「補助金」という。）の交付については、予算の範囲内において交付するものとし、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和 30 年法律第 179 号、以下「適化法」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和 30 年政令第 255 号、以下「適化法施行令」）という。）の規定によるほか、この要綱に定めるところによる。

(交付の目的)

第 2 条 補助金は、地球温暖化対策の推進に関する法律（平成 10 年法律第 117 号）第 20 条の 3 に規定する地方公共団体実行計画に基づく地域の取組を支援し、地域における低炭素化を推進するための事業を実施するため、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 252 条の 22 第 1 項の中核市又は地方自治法第 252 条の 26 の 3 第 1 項の特例市（以下「中核市等」という。）に基金を造成することを目的とする。

(交付先)

第 3 条 補助金は、環境大臣が中核市又は特例市の長（以下「中核市等の長」という。）に対し、その申請に基づいて交付する。

(交付の対象となる事業)

第 4 条 補助金は、中核市等が平成 22 年 1 月 28 日付け環政計発第 100128001 号「中核市・特例市グリーンニューディール基金事業の実施について」別紙「中核市・特例市グリーンニューディール基金事業実施要領」（以下「実施要領」という。）の第 3 に定める事業を実施するための基金（以下「中核市・特例市グリーンニューディール基金」という。）を造成する事業（以下「補助事業」という。）を交付の対象とする。

(交付額の算定方法)

第 5 条 補助金の交付額は、実施要領第 4 により算出した額の合計額（ただし、算出された額に、1,000 円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。）とし、次の額を基準額とする。

- 一 中核市 8,780 万円
- 二 特例市 5,854 万円

2 ただし、環境大臣が特に認めた場合には、環境大臣が認めた額を交付額とする。

(交付申請手続)

第 6 条 補助金の交付の申請は、中核市等の長が様式 1 による交付申請書に係る書類を

添えて別途定める日までに環境大臣に提出して行うものとする。

(交付変更申請手続)

第7条 補助金の交付の決定を受けた後の事情の変更により申請の内容を変更して交付の申請を行う場合には、中核市等の長が様式2による変更交付申請書を環境大臣に提出して行うものとする。

(交付決定の通知)

第8条 環境大臣は、第6条の規定による交付申請書又は第7条の規定による変更交付申請書の提出があったときは、審査のうえ、交付決定を行い、様式3による交付決定通知書の中核市等の長に送付するものとする。

(交付の条件)

第9条 中核市・特例市グリーンニューディール基金は、補助金の交付を受けて既存の基金に積み増す又は新たに造成するものとする。

- 2 中核市・特例市グリーンニューディール基金は、他の基金とは別に経理するものとする。
- 3 中核市・特例市グリーンニューディール基金に基づき実施する事業は、平成23年度末を期限として実施するものとし、事業が全て終了した場合において、残額がある場合には国費相当額を国に納付するものとする。
- 4 中核市・特例市グリーンニューディール基金に基づき実施する事業の実施期限を延長した場合は、前項の「平成23年度末」を「平成24年度末」と読み替えるものとする。

(申請の取下げ)

第10条 中核市等の長は、交付決定の内容又はこれに付された条件に対して不服があり、補助金の交付申請を取り下げようとするときは、交付の決定の日から起算して15日以内に、その旨を書面で環境大臣に申し出なければならない。

(補助事業の中止又は廃止)

第11条 中核市等の長は、補助事業の全部若しくは一部を中止し、又は廃止しようとする場合は、様式4による事業中止（廃止）承認申請書を環境大臣に提出して承認を受けなければならない。

(補助金の支払)

第12条 補助金は、第8条の規定により交付決定の通知を行った後、速やかに支払うものとする。

- 2 中核市等の長は、前項の規定により補助金の支払いを受けようとするときは、様式5による請求書を環境大臣に提出しなければならない。

(実績報告書)

第 13 条 中核市等の長は、補助事業を完了したとき（第 11 条の規定に基づく補助事業の中止又は廃止の承認を受けたときを含む。）は、事業を完了した日（補助事業の中止又は廃止の承認を受けた日）から起算して 30 日を経過した日又は翌年度の 4 月 10 日のいずれか早い日までに様式 6（中核市・特例市グリーンニューディール基金に基づき実施する事業が全て終了し、残額がある場合は、様式 6-1）による実績報告書を環境大臣に提出しなければならない。

(補助金の額の確定等)

第 14 条 環境大臣は、第 13 条の報告を受けた場合には、実績報告書の審査及び必要に応じて現地調査等を行い、その報告に係る補助事業の実施結果が補助金の交付の内容及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付すべき補助金の額を確定して、様式 7 による交付額確定通知書により中核市等の長に通知するものとする。

2 環境大臣は、中核市等に交付すべき補助金の額を確定した場合において、補助事業に要した経費を超える補助金が交付されているときは、その超える部分の補助金の返還を命ずるものとする。

3 前項の補助金の返還期限は、当該命令のなされた日から 20 日以内とする。ただし、当該補助金の返還のための予算措置につき、中核市等が議会の議決を必要とする場合で、かつ、本項の期限により難しい場合その他やむを得ない事情がある場合には、中核市等の申請に基づき補助金の額の確定の通知の日から 90 日以内で環境大臣が別に定める日以内とすることができる。なお、返還期限内に補助金に相当する額の納付がない場合には、未納に係る金額に対して、その未納に係る期間に応じて年利 10.95%の割合で計算した延滞金を徴するものとする。

(交付決定の取消等)

第 15 条 環境大臣は、第 11 条の補助事業の中止又は廃止の申請があった場合及び次の各号のいずれかに該当する場合には、交付の決定の全部若しくは一部を取消し又は変更することができる。

一 中核市等が、適化法、適化法施行令その他の法令若しくはこの要綱の規定に違反したことにより環境大臣の指示を受け、この指示に従わない場合

二 中核市等が、補助金を補助事業以外の用途に使用した場合

三 中核市等が、補助事業に関して不正、怠慢、その他不適当な行為をした場合

四 前三号に掲げる場合のほか、交付の決定後に生じた事情の変更により、補助事業の全部又は一部を継続する必要が無くなった場合

2 環境大臣は、前項の規定により交付決定の取消しを行った場合は、交付した補助金の全部又は一部の返還を命ずるものとする。

3 前項に基づく補助金の返還については、第 14 条第 3 項の規定を準用する。

(補助金の経理)

第 16 条 補助事業の経理に当たっては、補助金と中核市・特例市グリーンニューディール基金に基づき実施する事業に係る証拠書類等の管理については予算及び決算との関係を明らかにし、これを事業完了後 5 年間保管しておかなければならない。

(標準処理期間)

第 17 条 環境大臣は、第 6 条又は第 7 条に規定する申請書が到達した日から起算して、原則として 1 か月以内に交付の決定を行うものとする。

(附則)

- 1 この要綱は平成 22 年 1 月 28 日から施行する。
- 2 この要綱の取扱の詳細については、別途環境省総合環境政策局長が定めるものとする。

(附則)

この要綱は、平成 24 年 7 月 24 日から施行する。